

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 165	高等学校	芸術科	書道 I	
発行者の番号・略称	教科書の番号・略称	教科書名		
38 光村	書 I 308	書 I		

I. 編修の趣旨及び留意点

編修の趣旨

生徒が書と向き合い、「自分の書」に出会うことのできる教科書を目ざし、次の点を柱に編修しました。

自分の書に出会う。

感じる

鑑賞・臨書教材では、原跡に迫る高精細な図版を掲載しています。「本物」から感じ取ることのできる書の真髄は、生徒の感性を豊かにし、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。

学ぶ

生徒が書で表現することの楽しさや喜びを体感できる構成を目ざしました。学びやすさを追求し、達成感をもって取り組める構成は、生徒の主体的な学習姿勢を育成します。

考える

生徒が自ら考えて、古典や名筆を自分の書に落とし込んでいく過程を重視しました。じっくりと鑑賞したり、臨書を繰り返したりしながら、書の表現や構成美について考え、理解を深めます。

編修の留意点

1 書に親しみ、生涯にわたって愛好する心情を育成する。

- 「記憶に残る体験」ができる教材を取り上げ、生徒が書に興味をもち、主体的に学ぶことで自分の書に向き合うことができるよう構成しました。

2 感性を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を育成する。

- 書写で培った能力を基礎としながらも、厳選された古典教材を学習することにより、創造の根源となる感性を高め、表現力と鑑賞力を相乗的に培いながら自己表現へと展開できる内容を目ざしました。

3 書の伝統と文化についての理解を深める。

- 書の伝統と文化について、さまざまな角度からアプローチすることで、その理解を深めて文化に親しみ、次世代へ継承していく態度を育成することを目ざしました。

Ⅱ. 編修の基本方針

1. わかりやすく、学びやすい教科書

■ 学習の展開をわかりやすく示しました

- 「漢字の書」と「仮名の書」の構成は、「文字の造形を学ぶ→構成を学ぶ→創作する」という、わかりやすく段階的な学習展開としました。
- 古典教材を「基礎」と「応用」に分けることで、幅広い授業の展開が可能となるよう配慮しました。
- 「漢字仮名交じりの書」は、「漢字の書」と「仮名の書」の学習を基礎とすることが明確にわかる構成とし、創作にあたっては、実践的なポイントをわかりやすく示しました。

■ 「古典教材の学習ポイント」を明確に示しました

- 古典教材の何を学習するのか、どのような表現方法を学び、どのような力を身につけるかを焦点化して示すことで、表現と鑑賞の基礎的な能力が無理なく定着するよう配慮しました。
- 古典教材は原寸掲載を基本とし、その特徴を損なわないよう、すっきりとしたレイアウトを心がけました。

■ 中綴じ製本で扱いやすくなりました

- 折本や卷子本の古典を見開き紙面に原寸大で展開し、生徒の鑑賞に配慮しました。また、二つ折りにもできるため、臨書の際に負担が軽減されます。

■ 篆刻と刻字は小冊子にしました

- 「篆刻・刻字ブック」は、取り外して使うこともできる小冊子としてまとめ、実態に応じていつでも活用できる仕様にしました。
- 篆刻は白文印・朱文印の制作工程を、刻字は陽刻・陰刻の制作工程をそれぞれ網羅した充実の内容とし、さまざまな制作に対応できるよう配慮しました。

■ いつでも活用できる資料が充実しました

- 巻末に「資料」を設け、日常生活に役立つ実践的な資料や、学習を効果的にサポートする多彩な資料を収録しました。中学校までに学習した書写の学習要素一覧や姿勢・執筆、用具・用材の扱い方をまとめた「書写・書道の基本」、手紙等の定型書式を収めた「生活の中の書」、中国・日本の書道史年表や美術館・博物館ガイド、書道用語一覧を収めた「書道事典」の三つに分類し、必要に応じていつでも活用できるよう配慮しました。

2. 記憶に残る体験ができる教科書

■ 「本物」にこだわりました

- 古典・古筆の教材は、生徒の感性を高める大切な教材であるため、極めて鮮明で臨場感あふれる高精細の図版を掲載しています。特に、書の基礎を養う古典教材は、剪装本や卷子本の状態そのままを見開きで掲載し、教材の価値を高めるよう追求しました。
- 巻頭には、漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書が融合した、書き下ろし作品とその制作工程を掲載しました。書がもつ、美しくも力強い世界へと生徒を導きます。
- 臨書教材は全て原寸で掲載し、色調においても実物との校正を繰り返し、原跡に近づくよう追求しました。

■ さまざまな体験を通して書への理解を深めることができます

- 生徒自身が、好きな古典を選んだり、古典を比べたり、古典のイメージを言語化したりするなど、さまざまな角度から書にアプローチしていきます。主体的に学習を進めやすく、基礎・基本の定着を確実なものにします。

■ 書文化への関心を高める魅力的なコラムを満載しています

- 書文化や芸術への理解・関心を高めるコラムを随所に設定しました。生徒の視野を広げ、興味・関心を喚起できる内容を厳選して掲載しています。

Ⅲ. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
口絵・目次	○ 書道を通して真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うために、口絵には、書がもつ高いメッセージ性を感じられる写真を取り上げた。【第一号】	表2-p.4	
書写から書道へ 書道で学習すること	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、国語科書写から芸術科書道への接続となる導入教材を配した。【第一号】	p.5-6	
漢 字 の 書	1 はじめに 漢字の変遷とさまざまな書体	○ 甲骨文に始まる漢字の変遷と、その漢字から平仮名や片仮名が生まれた書の歴史を示すことで、伝統と文化を尊重し、我が国を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度が養えるよう配慮した。【第五号】	p.8-9
	2 文字の造形を学ぶ【楷書】 あなたは、どの楷書が好き？ 唐の四大家に学ぶ、楷書の基本鑑賞を深めよう 表現を広げよう	○ 生徒の個性を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うために、生徒が自らの感性で鑑賞し、古典に親しむ教材を設定した。【第二号】 ○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うために、基礎となる古典教材は、剪装本や卷子本の紙面を原寸大で掲載し、臨場感のある鑑賞を可能にするとともに、多字数を観察することで表現技法への理解を深められるよう配慮した。【第一号】 ○ 個人を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うために、書き込み欄を設け、生徒自らが考え判断するように設定した。【第二号】 ○ 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、世界文化遺産に登録されている龍門石窟や、同時代の摩崖を取り上げた。【第四号】	p.10-11 p.12-29 p.38-39 p.30-31 p.34-37
	[コラム] 書を後世に伝える 拓本の採り方	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国や他国を尊重する態度を養うために、書と文化財修復との関わりを示した。また、拓本についての理解が深まるよう、身近な素材で湿拓法を例示した。【第五号】	p.32-33 p.40-41
	2 文字の造形を学ぶ【行書】 行書の基本を押さえよう 表現を広げよう	○ 行書の基礎古典である「蘭亭序」は全景を原寸で掲載し、さらに曲水の宴を、図巻で示した。正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、古代文化人の宴を素材とした。【第三号】 ○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、遣唐使として中国に学んだ空海の書や同時代の唐代の書を取り上げ、古来盛んであった両国の関係についても理解できるよう配慮した。【第五号】	p.42-50 p.52-55
	[コラム] 印でわかる古典の真価 三筆・三跡の書	○ 名品に押された印に見える歴史や、日本と中国との交流によって生まれた和様の書を示し、これを文化として後世に伝える社会的な正義と責任、また自他の敬愛と公共の精神を養えるよう配慮した。【第三号】	p.51 p.56-57
	2 文字の造形を学ぶ 草書の特徴を知ろう 隸書の特徴を知ろう 篆書の特徴を知ろう	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、楷書や行書の他にも、草書・隸書・篆書の基礎的な知識や技能を教材化した。【第一号】	p.58-63
	3 構成を学ぶ 文字の大きさや配置を考える	○ 伝統と文化を尊重する態度を養うために、古典に基づく書を、伝統的な書式に沿った形式で掲載した。【第五号】	p.64-65
	4 創作する 古典を生かして書こう	○ 創作活動では、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と健やかな身体を育成することにつながる題材を取り上げた。【第一号】	p.66-67
	[コラム] 維新の書	○ 明治維新に生きた人物の書を示すことで、書という伝統文化が日常に根付いていたことを理解させるとともに、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことへの関心を喚起した。【第一号】	p.68

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
仮名の書	❶ はじめに 仮名の成立と種類	○ 中国で誕生した漢字をもとに平仮名や片仮名が生まれたことを示し、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うよう配慮した。 【第五号】	p.70-71
	❷ 文字の造形を学ぶ 古筆に見る仮名の表現技法 仮名の基本的な筆使いを押さえよう 平仮名と変体仮名の使い分けを見てみよう 滑らかな用筆で書く平仮名 表現の幅を広げる変体仮名 表現を広げよう	○ 平仮名や数種の変体仮名を取り上げ、漢字から仮名が成立した過程における先人の創意工夫を知ることにより、伝統と文化を尊重しながらも、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】 ○ 『古今和歌集』の写本である「高野切第三種」「関戸本古今和歌集」「元永本古今和歌集」を掲載することで、千年という長い歴史の中で大切に受け継がれてきた古典に、古の文化人の幅広い知識と教養が表れていることを知り、また生徒自らも真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う意識がもてるよう配慮した。【第一号】	p.72-79 p.80-83 p.86-87
	❸ 構成を学ぶ 古筆に見る仮名の紙面構成 行書きと散らし書き 文字の大きさや配置を考える	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うために、先人が培ってきた仮名の構成美を教材に設定した。【第五号】	p.88-93
	❹ 創作する 古筆を生かして書こう	○ 創作では、書の伝統的な書式を重んじながらも、さまざまな素材や表現法を示すことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことに配慮した。 【第一号】	p.94-95
	[コラム] 受け継がれる仮名の書 美しい料紙の世界	○ 手習いや鑑賞のために改装された古筆や、現代に伝わる装飾料紙を取り上げ、高い技術を要する伝統工芸との関連から、個人の価値を尊重するとともに、勤労を重んずる態度を養えるよう配慮した。【第二号】	p.84-85 p.96
漢字仮名交じりの書	❶ はじめに 伝達から表現へ イメージを文字で表現する	○ 書には「用」と「美」の二つの面があることを意識させる教材を取り上げ、自らも自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】	p.98-101
	❷ 創作する 自分だけの「風」を表現しよう さまざまな「風」を感じよう	○ 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うために、これまでに学習した要素を段階的に構成した。【第二号】 ○ 生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養うために、日常に生かす作品の題材や素材にも身近なテーマを取り上げた。【第四号】	p.102-109 p.110-111
	[コラム] 美術館・博物館へ行こう	○ 身近に存在する美術館の役割を紹介し、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮した。【第四号】	p.112-114
篆刻・刻字	篆刻 刻字ブック	○ 篆刻では、朱文印や白文印の表現技法を丁寧に示すことで、そこにある長い伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うよう配慮した。【第五号】 ○ さまざまな姓名印や街に息づく刻字を示すことにより、日常的に見られる印や看板等が書道の分野の一つであることを知り、社会の一員として、男女の平等を意識するとともに、公共の精神に基づき、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】	p.116-125 p.124-129 p.130
資料	書写・書道の基本	○ 正しい姿勢や筆の持ち方等、書道における基礎基本を身に付け、真理を求める態度を養うとともに健やかな身体の育成に配慮した。【第一号】 ○ 自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う意識がもてるよう、書の用具・用材である筆・紙・墨・硯の製造法等を紹介した。【第四号】	p.132-135 p.136-139
	生活の中の書	○ 社会の一員として、正義と責任、男女の平等を意識するとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、手紙の書き方や伝統的な表書きの書式等、日常の書式例を分類して取り上げた。【第三号】	p.140-147
	書道事典	○ 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、三千年にも及ぶ書の歴史と、その文化を保存研究する美術館を紹介した。【第五号】 ○ 真理を求める態度を養うために、書道における基礎的な用語とその解説を一覧にまとめ、長い歴史と伝統の中で受け継がれてきた書道をより深く理解できるよう配慮した。【第一号】	p.148-153 p.154-155

Ⅳ. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1 全ての生徒にとって使いやすく、わかりやすい教科書を実現しました。

[特別支援教育への配慮]

特別支援教育の専門家から校閲を受け、全ての生徒にとってわかりやすく、使いやすい教科書を実現しました。

- 学習の見通しをもてるように……学びに集中できるよう、学習内容を焦点化し、授業の流れがひと目でわかる、すっきりとしたデザインを採用しました。
- 図や写真の活用……わかりにくい筆使いや字形については、写真で示したり図解したりして、視覚的にも理解しやすいように提示しました。

[色覚特性への対応]

カラーユニバーサルデザインの専門家から校閲を受け、全ての生徒にとってわかりやすく、使いやすい教科書を実現しました。

- 配色への配慮……文字や図表などに複数の色を用いるときは、誰もが明確に識別できる組み合わせであることに、細心の注意を払いました。

2 中学校との接続を図りました。

巻頭に「書写から書道へ」「書道で学習すること」を設け、中学校国語科書写からの円滑な接続を図るとともに、芸術科書道での学習の見通しが持てるように配慮しました。

- 「書写から書道へ」……中学校までに学習した筆使い、字形、配列などについて、図版を用いて丁寧に解説しました。
- 「書道で学習すること」……「書道Ⅰ」で学習する内容と目的、基本用語について、写真を用いて丁寧に解説しました。

3 他教科の学習との関連を図りました。

古文・漢文や歴史の学習、他の芸術分野との関連性にもふれ、総合的に知識と感性を高められるようにしました。

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 165	高等学校	芸術科	書道 I	
発行者の番号・略称	教科書の番号・略称	教科書名		
38 光村	書 I 308	書 I		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

「書 I」の目標 → 自分の書に出会う。

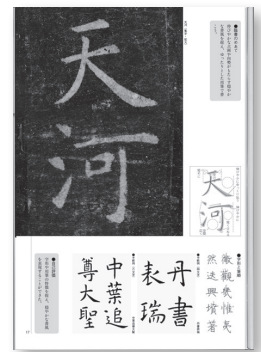
編集の基本方針 → 感じる・学ぶ・考える

構造上の特徴

1 全体の構成と配列

生徒がさまざまな体験を通して主体的に学び、自身の感性を高めて「自分の書」と向き合えるよう、次のような工夫をしました。

- 「漢字の書」「仮名の書」の臨書や鑑賞を通して得た知識・技能を十分に生かし、「漢字仮名交じりの書」の創作で「自分の書」に出会えるよう構成しました。
- ページを折り返せる中綴じ製本を採用。高精細な古典画像を机上に置いて臨書できます。
- 「篆刻・刻字」は「篆刻 刻字ブック」として独立させ、いつでも活用できるようにしました。
- 書写・書道の基本や生活の中の書、書道関連の知識事項は巻末資料としてまとめました。

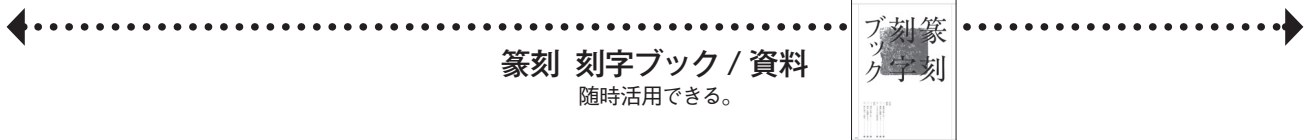


導入 → 基礎・基本の習得 → 基礎・基本の活用 → 自分の書に出会う

巻頭 漢字の書



中学校との接続。 各領域の概論。全体を見通す。 古典・古筆の臨書・鑑賞を通して、字形・用筆・紙面構成の基礎・基本を学ぶ。 学んだことを活用し、定着を図る。



2 各領域の構成

生涯にわたって書を楽しむ心情を育み、感性と表現力を高めるために、「記憶に残る体験」ができる教材を用意しました。生徒が自ら「感じ、学び、考える」ことで、書への関心を高められるように工夫しました。

- 生徒が主体的に学ぶよう、見る・比べる・選ぶ・話し合うなどの学習活動を積極的に取り入れました。
- 教材の扱い方にメリハリをつけました。書を学ぶうえで基本となる古典・古筆は特に重点的に扱い、表現と鑑賞を通して字形や用筆の基礎・基本を習得できるようにしました。
- 学習を通して身につける力を明確にし、それがひと目でわかるレイアウトを実現しました。
- 随所にコラムを設け、書の伝統と文化に対する理解を深めるとともに、文字文化や他の芸術分野、国語や歴史の学習にもつながる多角的な話題を提示しました。

感じる



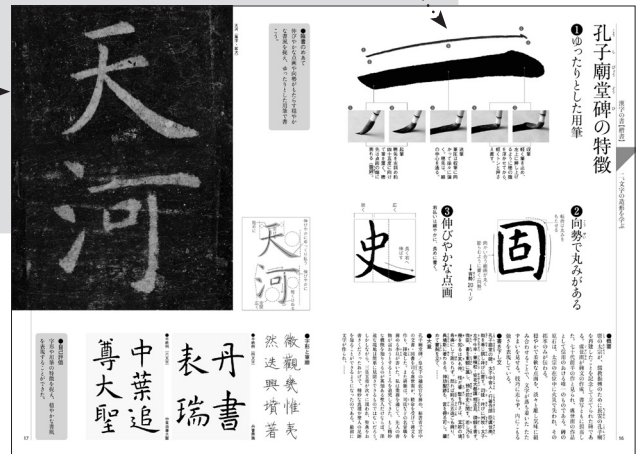
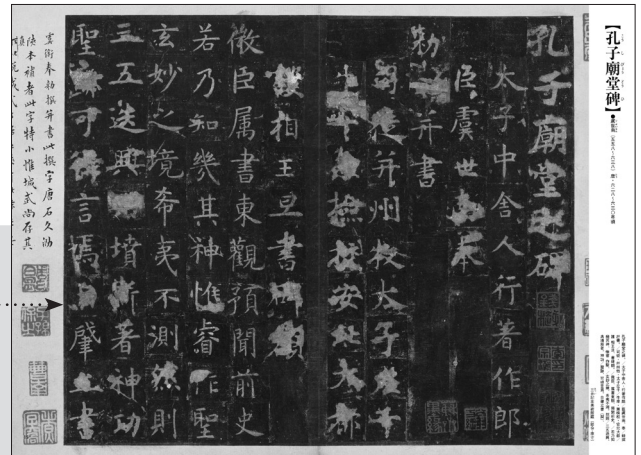
「あなたは、どの楷書が好き？」≫比べる・選ぶ
まずは古典に出会ったときの、自分の感覚を大切にしてほしいと考えました。「比べて選ぶ」ことで、自分の意見をもちやすくなります。

古典・古筆の学習 ≫見る・書く

①鑑賞
臨場感のある高精細画像を原寸大で掲げました。多字数の鑑賞は、文字や用筆に共通する特徴を捉えるのに役立ち、臨書に生かさせます。

②用筆・字形・点画の特徴
文字の造形を的確に捉えるために、用筆・字形・点画の観点から特徴を解説しています。

③臨書
「臨書のめあて」及び「自己評価」の観点を示し、古典・古筆のどのような特徴や書風を意識して書くかを明確にしました。



学ぶ



「鑑賞を深めよう」≫見る・比べる・話し合う
臨書を通して、それぞれの文字への理解を深めたところで、直感的にもったイメージが造形上のどんな特徴によるものかを分析し、鑑賞を深めます。

考える

教材化の配慮と工夫

[教材の選定と配列]

- 書を学ぶうえで基本となる古典・古筆・名筆を重点的に扱い、字形や用筆の知識・技能を習得できるようにしました。その上で、それ以外の多彩な書風にふれ、表現や鑑賞を広げられるようにしました。
- 古典・古筆は、諸本の中から最良のものを選び、その書に特有の書風や字形・用筆が見られる部分を採用しました。

領域	書体	基本となる古典・古筆・名筆	表現を広げるための古典・古筆	それ以外の古典・古筆
漢字の書	楷書	「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」	「牛橛造像記」「鄭義下碑」 「隅寺心経」	「始平公造像記」「魏靈藏造像記」 「鄭長猷造像記」「賀蘭汗造像記」
	行書	「蘭亭序」	「争坐位文稿」「蜀素帖」 「風信帖」	「灌頂歴名」「光定戒牒」「伊都内親王願文」 「智証大師謚号勅書」「詩懐紙」「白氏詩卷」 「開長楽和尚嗣法書上堂語」
	草書	「真草千字文」		「淳化閣帖」
	隸書	「曹全碑」		「礼器碑」
	篆書	「泰山刻石」		「甲骨文」「小克鼎」
仮名の書		「蓬萊切」 「高野切第三種」	「関戸本古今和歌集」 「元永本古今和歌集」 「寸松庵色紙」「升色紙」	「隅田八幡人物画象鏡銘」「正倉院仮名文書」 「綾地切」「高野切第一種」「方丈記」 「本阿弥切本古今和歌集」「翰墨城」「高窠帖」 「本願寺本三十六人家集」
漢字仮名 交じりの書		[伝達としての書] 夏目漱石, 川端康成, 會津八一 [表現としての書] 金子鷗亭, 日比野五鳳		

[生徒の理解を深める工夫]

- 発達段階に即して、わかりやすく解説しました。表記は統一し、常用外漢字や専門用語には読み方を付しました。
- 基本の教材は次のような要素で構成しました。創作や篆刻・刻字は、制作の手順を写真とともに丁寧に示しました。

臨書のめあて・自己評価

何を意識して書くかを明確にしました。

字形と筆順・半紙例

不鮮明な文字や書き方のわかりにくい文字には、硬筆の骨書きと筆順を示しました。また、参考として半紙への配字例を複数示しました。

特徴

字形や用筆、点画の特徴を図や写真でわかりやすく示しました。

概要・書き下し文(釈文)・大意

概要には、生徒の知的好奇心を喚起する背景やエピソードを記しました。書き下し文には大意を付け、内容からも興味をもてるようにしました。

[紙面構成上の工夫]

- 「蘭亭序」の原寸大全景をはじめ、鮮明な画像と臨場感あふれるレイアウトで、書の美を存分に伝えました。
- また各単元に中扉やインデックスを付して検索性を高め、生徒が教科書を主体的に活用できるよう配慮しました。

[資料の充実・日常に生きる書写]

- 書の基本や伝統・文化への理解を深めたり、日常に生かしたりする切り口として、コラム・資料を設けました。
- 書写との関連を重視し、また、日常における書写能力を高めるために、全単元で硬筆を取り上げました。

コラム	漢字の書:「書を後世に伝える」「拓本の採り方」「印でわかる古典の真価」「三筆・三跡の書」「維新の書」 仮名の書:「受け継がれる仮名の書」「美しい料紙の世界」 総合:「美術館・博物館へ行こう」
資料	書写・書道の基本:姿勢・執筆や書写の学習内容、用具・用材など 生活の中の書:手紙、履歴書、表書きなど 書道事典:書道史、美術館ガイド、書道用語一覧など

Ⅱ. 対照表

	図書の構成・内容	箇所	学習指導要領の内容		
			A 表現	B 鑑賞	内容の取扱い
巻頭	書写から書道へ	p.5	(1)ア・イ・ウ・エ・オ (2)ア・イ・ウ・エ (3)ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ・エ	(1)(2)(3)(4)(5)
	書道で学習すること	p.6			
漢字の書	1 はじめに				
	漢字の変遷とさまざまな書体	p.8-9		イ・ウ・エ	(1)
	2 文字の造形を学ぶ				
	【楷書】 あなたは、どの楷書が好き?	p.10-11		イ・ウ	(1)
	唐の四大家に学ぶ、楷書の基本 「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」	p.12-29	(2)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	鑑賞を深めよう	p.30-31	(2)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
	【コラム】 書を後世に伝える	p.32-33		ア・イ・ウ	(1)
	表現を広げよう「龍門石窟」の書 「牛欄造像記」	p.34-35	(2)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	表現を広げよう「摩崖」の書 「鄭義下碑」	p.36-37	(2)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	表現を広げよう「小楷」 「隅寺心経」	p.38-39	(2)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	【コラム】 拓本の採り方	p.40-41		ア・イ・ウ	(1)
	【行書】 行書の基本を押さえよう 「蘭亭序」	p.42-50	(2)イ・ウ	イ・ウ・エ	(1)(2)(3)(4)
	【コラム】 印でわかる古典の真価	p.51		ア・イ・ウ	(1)
	表現を広げよう 表情豊かな行書 「争坐位文稿」「蜀素帖」	p.52-53	(2)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	表現を広げよう 日本で書かれた行書 「風信帖」	p.54-55	(2)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	【コラム】 三筆・三跡の書	p.56-57	(2)イ・ウ	イ・ウ・エ	(1)(2)(4)
	【草書】 草書の特徴を知ろう「真草千字文」	p.58-59			
	【隸書】 隸書の特徴を知ろう「曹全碑」	p.60-61	(2)イ・ウ	イ・ウ・エ	(1)(2)(4)
	【篆書】 篆書の特徴を知ろう「泰山刻石」	p.62-63			
	3 構成を学ぶ				
文字の大きさや配置を考える	p.64-65	(2)ア・イ・ウ・エ	イ・ウ	(1)(2)(4)	
4 創作する					
古典を生かして書こう	p.66-67	(2)ア・イ・ウ・エ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)(5)	
【コラム】 維新の書	p.68		ア・イ・ウ	(1)	
仮名の書	1 はじめに				
	仮名の成立と種類	p.70-71		イ・ウ・エ	(1)
	2 文字の造形を学ぶ				
	古筆に見る仮名の表現技法「蓬萊切」	p.72-73	(3)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
仮名の基本的な筆使いを押さえよう	p.74	(3)ア・イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)	

	図書の構成・内容	箇所	学習指導要領の内容		
			A 表現	B 鑑賞	内容の取扱い
仮名の書	平仮名と変体仮名の使い分けをしてみよう	p.75	(3)ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
	滑らかな用筆で書く平仮名	p.76-77	(3)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
	表現の幅を広げる変体仮名	p.78-79	(3)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
	「高野切第三種」	p.80-83	(3)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
	[コラム] 受け継がれる仮名の書	p.84-85		ア・イ・ウ	(1)
	表現を広げよう『古今和歌集』表現の違い 「関戸本古今和歌集」「元永本古今和歌集」	p.86-87	(3)イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
	3 構成を学ぶ				
	古筆に見る仮名の紙面構成 「寸松庵色紙」「升色紙」	p.88-89	(3)ア・イ・ウ	イ・ウ	(1)(2)(4)
	行書きと散らし書き	p.90-91	(3)ア・ウ	イ・ウ	(1)
	文字の大きさや配置を考える	p.92-93	(3)ア・イ・ウ・エ	イ・ウ	(1)
4 創作する					
古筆を生かして書こう	p.94-95	(3)ア・イ・ウ・エ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)(5)	
[コラム] 美しい料紙の世界	p.96		ア・イ・ウ	(1)	
漢字仮名交じりの書	1 はじめに				
	伝達から表現へ	p.98-99	(1)エ・オ	ア・イ・ウ・エ	(1)
	イメージを文字で表現する	p.100-101	(1)イ・ウ・オ	イ	(1)
	2 創作する				
	自分だけの「風」を表現しよう A 書体・書風を考える B 紙面構成を考える C 用具・用材を考える	p.102-109	(1)ア・イ・ウ・エ・オ	イ・ウ	(1)(2)(3)(4)(5)
	さまざまな「風」を感じよう	p.110-111	(1)ア・イ・ウ・エ・オ	ア	(1)(2)(3)(4)(5)(6)
[コラム] 美術館・博物館へ行こう	p.112-114		ア・イ・ウ	(1)	
篆刻・刻字	篆刻 刻字ブック	p.115-130	(1)ア・イ・ウ・エ・オ (2)ア・イ・ウ・エ (3)ア・イ・ウ・エ	ア・イ・ウ・エ	(1)(2)(4)
資料	書写・書道の基本	p.132-139	(1)ア・イ・ウ (2)ア・イ・ウ (3)ア・イ		(2)(3)
	生活の中の書	p.140-147	(1)ア・イ・ウ・エ・オ (2)ア・イ・ウ・エ (3)ア・イ・ウ・エ	ア	(2)(3)(4)
	書道事典	p.148-155	(1)ア・イ・ウ・エ・オ (2)ア・イ・ウ・エ (3)ア・イ・ウ・エ	ア・ウ・エ	(1)(6)